

日岡神社
(加古川市加古川町)

景行天皇の皇后いひののおいらつめ稲日大郎姫が産出の際、同神社の主祭神・天伊佐佐比古命あめのいささひこのみことが七日七夜安産を祈り、無事に双子の皇子が生まれたことから安産の神様として名を馳せました。



また皇子の一人は倭建命やまとたけるのみことといわれています。

❀おもしろい伝承

日岡神社で安産祈願祈禱を受けた方に御神符・御神供・赤い安産肌守りが授けられます。帰宅後すぐに食べる御神供について、中の御神供が奇数なら男児、偶数なら女児が生まれると言いつたされています。

また、祈禱後に門を出てはじめて会った人が男性なら男児、女性なら女児とも言われています。



鶴林寺の「あいたた観音」 (加古川市加古川町)

鶴林寺宝物館に収蔵されている聖観音立像。腰を少し左にひねった軽やかなポーズ、かすかに微笑みをたたえた姿は美しく親しみやすい仏様です。ドイツ・アメリカ



(出典：鶴林寺)

の美術展でも日本の仏像を代表して展示されました。

「あいたた観音」の昔話で有名な仏像です。地元では絵本も出版されましたが、その後絶版、2019年にDVD化され、市内小学校・図書館に寄贈されました。この映像は鶴林寺宝物館でも視聴できます。

❀「あいたたの観音さま」のいわれ

昔々泥棒が、金で覆われたこの観音様を寺から盗み出し、たたらで火にかけて溶かそうと試みましたが全く溶けず、観音様を叩くと「あいたた」と声を発しました。

それに驚いた泥棒は寺に観音様を返し、その後この観音様は「あいたたの観音さま」と呼ばれるようになりました。



⑦日本毛織印南工場煉瓦建物群 (加古川市加古川町)

1896年(明29)創業の日本毛織(株)で現存する工場のうち、大正時代に建てられた最も歴史のある工場。最新鋭の機器を備えて今も稼働しています。赤煉瓦と採光のため設計されたのこぎり状の屋根が特徴的。

⑧駅ヶ池・賀古駅家跡
(加古川市野口町)

賀古駅家跡(古大内遺跡)は、古代律令国家の下、西国街道に設けられた国内最大の駅家と呼ばれる拠点の跡です。付近には教信上人が村人たちと掘った駅ヶ池があります。

❀教信上人

教信上人は、念仏を唱えながら仏の教えを説き、旅人の檜物を運んだりして大勢の人を助けました。そのことから荷送り上人とも呼ばれ、人々から親しまれました。庵跡には教信寺が建てられています。



⑨山之上住吉神社・漬目池
(加古川市平岡町)

隣接する大中遺跡は住吉神社境内にも地続きであり、漬目池の池底からは旧石器時代の石器などが発見されており、大中遺跡と同じ弥生時代の人々が暮らしていたと思われ、このあたり一帯が「山之上遺跡」と呼ばれています。



⑩宝蔵寺
(加古川市別府町)

奈良時代、聖武天皇の勅命で行基が開基しました。境内には多木化学(株)の創業者多木久米次郎が譲り受けて植えた、日本最古といわれるオリーブの木があります。



また加古川市出身の俳諧師滝瓢水の句碑「浜までは海女も蓑着る 時雨かな」が残っています。

❀滝瓢水

江戸時代中期の俳人で富裕な船問屋に生まれましたが商いには一切かわらず没落させました。鶴林寺には「ほろほろと雨そふ須磨の蚊遣哉」の句碑があり、別府の住吉神社の「手枕の松」は瓢水が名付けたと言われています。



しょうみょうじ 称名寺

(加古川市加古川町)

羽柴秀吉による毛利攻めの際「加古川評定」が行われた加古川城の城跡に建つ真言宗のお寺です。秋を彩る銀杏の木は、絵画・写真愛好家が集うスポットとなっています。



❀加古川評定

別所氏・小寺氏・赤松氏の播磨三大勢力は官兵衛の働きかけがあり、一旦は織田側につくことでまとまっていたが、毛利討伐が諮られた軍議「加古川評定」で、かねてより毛利氏支持の別所吉親が秀吉と衝突、別所長治に信長への謀反を促したために播磨最大の勢力別所氏は毛利側に付くことになり、それに多くの播磨の城主たちが同調したことで、織田軍による播磨への猛攻撃が始まります。いわば、この加古川評定が戦国時代の播磨の運命を決めたと言っても過言ではありません。

